

「沼のほとり」

NPO 法人手賀沼トラスト会報 第107号

(発行日：2021年1月1日)

年頭のごあいさつ

NPO 法人手賀沼トラスト 理事長 遠藤 織太郎

皆さん新年あけましておめでとうございます。

まずは今年こそ、コロナ禍を脱し、誰もが伸び伸びと活動できる年になってほしいと願っています。昨年はそのコロナ禍拡大の中で、トラスト活動もマスクの着用、三密回避、アルコール消毒、手洗いなどを励行しての活動となり、皆さんには大変ご迷惑やらご負担をかけてしまいました。しかし、皆様のご協力により、一人の感染者も出さず、この一年の活動を終えることができました。しかもそれぞれの分野、部門で充実した成果を上げることができました。改めてこのご尽力に感謝申し上げます。



特に昨年の活動に見られた特異点をみますと、① 里山農教室と子供部会の人数が増え、それぞれが独立して活動したこと、出席率も例年になく良く、栽培作物に熱心に取り組みました。② 農教室修了式での子供たちの発表はこの活動がどんなに子供たちの成長に寄与しているかを大人に実感させたものでした。③ 定例活動は参加人数も増加し、里山環境の整備はじめ、トラスト活動全体の管理、美化など力を発揮しました。④ 遊休農地では GMT チームが中心となり、機械による稲作栽培、畑ではひまわりや菜の花栽培により、見事な景観形成をなし、市民を楽しませました。⑤ トラストサロンでは「炭座」の代表田中優子氏の講演『炭の効用』について学びました。⑥ GMT や臨時作業に適用してきた現物支給制度は活動の円滑化にすっかり定着してきました。⑦ コロナ対策や安全対策が励行され、無事に一年が過ごせたこと等あげられます。



一方、コロナの影響を受け、中止せざるを得なかった行事、活動もあり、無念さも残りました。ひまわりや菜の花の一般公開、そば祭り、餅つき大会、農教室の椅子を並べての座学も出来ませんでした。総括すれば、トラスト活動は確実に地域に定着し、豊かな地域づくりに前進した年であったと思います。

新年はトラスト活動、24年目を迎えます。発足当初に比べ、トラストは子供たちを含め大世帯となり、活動エリアも内容も飛躍的に拡大してきました。

今年も農や環境保全活動を更に前進させ、みんなの楽園づくり、人が集まり学び憩える地域づくりに向かって新たなる知恵や工夫をし、楽しく活動をしたいものです。

皆さん、今年もどうぞよろしくお祝い申し上げます。

お知らせ

*12月は理事会がありませんので、会報12月号に2月までの予定を載せておきました。ご参照ください。HPにも活動予定が載っています。

*新年度の活動は、1月17日(日)の定例活動から始まります。

なお、1～2月の定例活動は9時開始です。12月号の活動予定に8時半開始としてしまいました。お詫びして訂正いたします。

*2月11日(木・休日)の子ども部会の説明会は10時開始です。お知り合いに参加希望者がいたらご案内ください。

新シリーズ これは使える！ 私の工夫 1

新シリーズを始めます。会員の皆さんが菜園・家事・DIYなどでしている工夫、秘訣、便利道具などを紹介していきます。第1回は村山正さんの工夫です。

皆さんの投稿をお待ちしています。書くのが面倒な方はアイデアだけでもお知らせください。記者？が記事にします。

かんたん万能有機肥料 ポカシ肥の作り方

村山 正

ポカシ肥は、複数の有機質資材を発酵させることで、窒素・リン酸・カリの三要素をバランス良く含ませつつ発酵させたものです。発酵済みであるポカシ肥であれば、施用してからすぐに種まきや植付けが可能です。

元肥にも追肥にも使えるので、化学肥料を使わない有機農業に欠かせない万能肥料です。土の中の微生物が増え土壌改善の効果もあります。また、身近に手に入る材料を使って簡単に作ることができるのも特徴です。作ったポカシ肥は半年ほど利用することができます。

作り方は2通り

ポカシ肥には、発酵方法により次の2通りの作り方があります。

好気性発酵・・・切り返し作業が必要。完成までの時間が短い（2週間～1ヶ月）。

嫌気性発酵・・・切り返し不要（密閉）で簡単。完成まで時間が掛かる（2～3ヶ月）。

どちらも材料は同じで、得られる肥効はほぼ同じですが、作業の手間や掛かる時間に違いがあります。農教室で毎年3月に作成するぼかし肥は、好気性発酵による方法です。

今回紹介するのは、それとは違う嫌気性発酵の作り方です。切り返しが必要なく手間が掛からず、家庭などで少量作成もでき大変便利です。

ポカシ肥の材料

一般的にポカシ肥の材料には、米ぬか、油粕、魚粉、鶏糞などが使われますが、種類の組合せや量に決まりは特にありません。

材料の種類や分量により成分含有量を調整できるというのも、ポカシ肥のいいところです。例えば、窒素を多くしたければ油粕を増やす、リン酸なら鶏糞や魚粉、カリなら草木灰を入れるなど、それぞれの材料が持つ特徴を知ることによって、目的に合わせたポカシ肥を作ることが可能になります。家庭で生ごみとして捨ててしまうコーヒ粕、茶殻、紅茶粕、卵の殻、ミカンの皮なども利用できます。これらはよく乾燥させてから使用します。

また、もみ殻を米ぬかの半分あるいは同量位混ぜます。もみ殻は肥料としての効果は殆ど期待できませんが土壌改善の効果があります。土の団粒構造化と微生物の増殖が促進されます。

基本となるポカシ肥の材料

ここで紹介するのは、米ぬかを主原料とした基本のポカシ肥です。材料は次の通りです。

米ぬか：3、油粕：1、カキ殻石灰：1、もみ殻 2 水：投入材料の 1/10（水の代わりに飲むヨーグルトでもよい）

上記の配合割合で、例えば、米ぬか 7.5kg、油粕 2.5kg、牡蠣殻石灰 2.5kg、もみ殻 3kg、水 1.25 リットルとなります。

メモ：米ぬか、油粕で三要素「窒素（N）・リン酸（P）・カリ（K）」をバランスよく含み、カキ殻石灰でカルシウムと微量元素に加え土壌改良の効果も得られる構成となっています。

発酵促進剤

米ぬかや水だけでも発酵しますが、発酵促進のため飲むヨーグルトと納豆を混ぜて使っています。そのほかに元菌として「土着菌」を投入することもできます。雑木林などで落ち葉をめくるといわれる白い物質です。これを持ち帰って材料に混ぜ入れます。また、発酵促進剤として市販されている EM 菌などを使うこともできます。

嫌気性ボカシ肥の作り方

1. 仕込み

まず、ビニールシートまたは大型のタンクに材料を必要分量だけ投入し、ジョウロで水を掛けながら、しっかりと混ぜます。気をつけたいといけないのは水の量です。**水が多すぎると腐ってしまいます。**目安としては、手で握って固まっても、指で押すとパラパラと砕ける程度にします。

出来上がったものは、空気が入らない様に厚手のナイロン袋に紐でしっかりと結んで密封します。

ナイロン袋の代わりに一斗缶（18リットル）を使うと適量が作れるので便利です。

発酵の過程で酸素が入ると、肥料にならないので、できるだけ空気を抜いて、しっかりと密封しておくのがポイントです。



2. しばらく保管

密封した袋は、雨や日光が当たらないところで保管しておきます。途中一度も開けずに途中で切り返す必要もありません。しばらくすると発酵が始まります。好気性発酵と違って酸素がなくても発酵が進み、発酵熱は出ません。

3. 完成

仕込んでから、暖かい時期なら1ヶ月、冬季なら2~3ヶ月ほどで発酵が終わり、肥料として使えるようになります。

袋を開けてみて、ヨーグルトのような乳酸発酵の甘酸っぱい匂いがして表面に白いカビが付着していれば、うまく発酵が終了したという証拠です。塊になっているのをパラパラに崩して、風通しの良い日陰で乾燥させます。乾燥させずにそのまま使うことも可能です。乾燥すると微生物が休眠して発酵が止まり、保存が可能になります。この状態で土嚢袋などに入れて保管しておきます。

時間が経つと肥料効果が薄れるため、半年ほどで使い切るようにします。



まとめ：失敗しないためのポイント

- 1 水分の量が多すぎないこと
- 2 空気が入らないようによく密閉すること

甘酸っぱい匂いがし、表面に白いカビが付着していると成功です。腐ったような異臭がすると失敗です。

***もみ殻と米ぬかはトラストにあります。必要な方は富沢にお申し出ください。油粕や牡蠣殻石灰はホームセンターなどでお買い求めください。**

手賀沼トラスト特別コース部会のご紹介

特別コースは、農教室を終了した方が有機無農薬、生態系農業の技能をより高めるために15年ほど前に発足した部会です。参加者には1区画15㎡の圃場が貸与されます。栽培する作物は自由ですが、自分で年間の栽培計画を立て、作物を栽培管理し、収穫した作物は自家消費します。

各自、年度初め(3月)に年間の作付け計画、課題、目標を設定し、年度の終わりに自己評価し、部会員に報告します。遠藤先生のご指導の下に月に1回の定例会合があり、情報交換、意見交換、勉強会などを行います。

参加者の共通課題作物として、毎年「さといも」の栽培をします。そば祭りのときに品評会を行い、農教室の修了式のときに優秀賞が表彰されます。

また、特別コースの研修の一環として毎年6月頃、我孫子市の大型の福祉バスを利用して、近隣の有機栽培農家を訪問しています。さらに毎年2月頃茨城大学農学部の教授で、手賀沼トラストの顧問の小松崎将一先生による有機栽培に関する講演会も予定しています。

特別コース部会の新規参加者募集について

新年度(2021年度)の特別コース部会の参加者を募集します。
参加者には、城址下にある約15㎡の圃場が貸与されます。

募集人員： 若干名

参加費： 2000円/年間(2021年3月～2022年2月)

応募期間： 令和3年1月1日～1月31日

申込先： 村山 090-1214-3695 04-7103-3496

tadashi_murayama_abiko@yahoo.co.jp

発行責任者 遠藤織太郎 (TEL: 04-7182-0387) 編集責任者 富沢 崇 (TEL: 090-2234-5610)
事務所: 我孫子市白山 2-13-5 編集責任者住所: 我孫子市根戸新田 135-3
e-mail: info@teganuma-trust.jp ホームページ: <http://teganuma-trust.jp/>

新春別刷り

以上の1月号を編集し終わったあとに、堀内さんから以下の原稿がメールでおくられてきました。2月号に載せようかとも思ったのですが、素敵な内容で新年号にふさわしいと思いましたので、元旦の新聞の企画をまねて、新春別刷り版をお届けします。なお、写真は川瀬さん提供です。

命名 ゆず

堀内 省吾

先週(12月中旬)ファームのハウス内で歓談しているとき、一人の女性が現れて「お節介かと思いますが、ここで面倒を見ていると思われる子猫の去勢手術をしたいとおもうのですが？」とのこと。当方すこし驚きましたが、棲みついた野良猫でオス猫であることも既に知っていたようです。このままだと来春からメス猫を探して徘徊するなどの話もあったため、寺田さんが承諾し手術を受けさせることになりました。費用はこの女性が全て持つとのことでした。

今日(12月22日)、昼頃ファームに寄ると、ちょうどこの女性が車で帰って来たところで、ケージバスケットに入れた子猫を抱えながら「いま手術が終わりました」とのことでした。

明日から3日間朝に飲ませる化膿止めの抗生物質と混ぜて食べさせるゼリーフードを置いていきました。(←寺田さんにお願ひしました)

去勢済みである印に右耳の上を少しv字にカットしてあり少し出血していますが驚かないで下さい。

これまで名無しの権平でしたが、昨日21日が冬至であり、ファーム前に大きな柚子の木があることなどで、この女性が「ゆず」と命名していきまされたのでお知らせします。

素直でおとなしく、人懐こいととてもいい猫だとのことでした。今後皆さまの深い愛情をよろしくお願ひ致します。



そもそもこの子猫の親は、以前からトラストの資材が置いてある納屋やファームのハウスに棲みついていたメス猫で、納屋やハウス内にある米などを狙うネズミの番をしてきていたため、追い払うことなく放置していました。

11月の中旬、ハウス内の資材の陰で「ニャーニャー」と鳴く子猫がいました。なんでこんな所に子猫がと思いましたが、思い起こせば、お腹が大きかったあの納屋付近にいたメス猫が数日前にファーム横の道路で車に撥ねられて死んでしまったのです。

この子猫はあのメス猫の子供だと直感しました。

ひょっとすると母猫は「ここで産めばきっと大事に育ててくれる」と思ったのでしょうか。まだ乳離れもしていない子猫を哀れに思った心優しい寺田さんは早速、キャットフードや水などを用意して面倒をみています。

いまでは一回り大きくなりファームのアイドル「ゆず」として成長しています。

(注記) この猫は漱石の『吾輩は猫である』の猫同様、名前がありませんでした。川瀬さんと星野さんは「チャーちゃん」と呼んでいましたが、子どもたちは「みゃーこ」と呼び、寺田さんにいたっては「猫八」と呼んでいました。今後は「ゆず」です。これ以外の名前で呼ぶことを禁止します。